南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

（急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告）

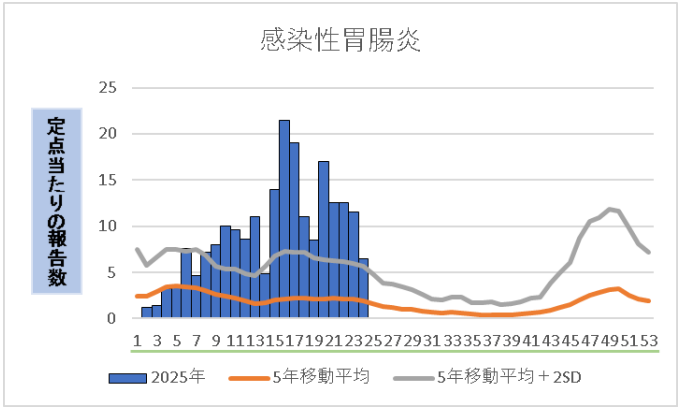
第 24 週　　2025 年 6 月 9 日　　～　　2025 年 6 月 15 日

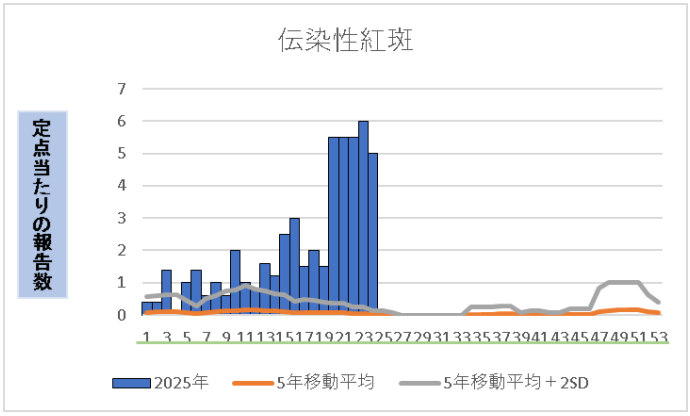
今週のコメント

伝染性紅斑(リンゴ病)は、警報レベル継続中です。

2025 年第 24 週の報告です。
〇感染性胃腸炎の定点あたりの報告数は南丹 6.50（前週 11.50）、京都府 6.85（前週 7.38）となっています。
〇伝染性紅斑の定点あたりの報告数は南丹 5.00（前週 6.00）、京都府 2.00（2.63）となっています。
〇全国的に百日咳（全数報告疾患）が増加傾向にあり、府内でも報告が続いています。第 24 週においては南丹保健所管内で 0 件（前週 0 件）、府内で 43 件（前週 37 件）報告されました。長引く咳には注意し、乳幼児は予防接種を確実に行いましょう。
　京都府の百日咳に関する情報はこちらを確認して下さい。
　百日咳に関する情報はこちらを確認して下さい。

今週のグラフ　（下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています）





※横軸は週数　縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。
2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

伝染性紅斑とは…
　小児を中心に流行する、ヒトパルボウイルス B19 による感染症です。両頬に境界鮮明な紅い発しん（リンゴの頬）が現れ、続いて手・足に発しんが見られます。発しんは 1 週間ほどで消失します。頬に発しんが出現する 7～10 日くらい前に、微熱や感冒様症状などの症状が見られることが多く、この時期にウイルス排出量が最も多くなります。発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどありません。大人では、小児に見られる頬の発しんはあまりなく、関節痛・頭痛などがありますが、ほとんどは自然に回復します。特に大人では、感染しても症状がない場合があります。感染経路は、咳・くしゃみ・会話などにより生じた飛沫や接触により感染します。現時点で治療法はなく、治療は症状に対する薬で行います。
　これまでに伝染性紅斑に感染したことがない女性が妊娠中に感染すると、おなかの赤ちゃんに感染することがあり、感染しても多くは正常な経過をたどりますが、流産や死産、胎児水腫を引き起こすことがあります。妊娠中、あるいは妊娠の可能性がある方やその周囲の方は、こまめな手洗いやマスクなどの感染対策を心がけましょう。

　伝染性紅斑についてより詳しく知りたい方はこちらのページもご覧ください。
伝染性紅斑（リンゴ病）の定点当たりの報告数が警報レベルになりました！（京都府感染症情報センター）
伝染性紅斑（厚生労働省）

各定点把握疾患　発生状況（南丹管内）

	警報レベル(2)		注意報(3)	R7.24w	
	開始	終息		定点当たり報告数(1)	先週比
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	30	10	10（流行1）	0.25	↘
新型コロナウイルス感染症				0.75	↘
RSｳｲﾙｽ感染症				0.00	→
咽頭結膜熱	3	1		0.50	→
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		3.00	→
感染性胃腸炎	20	12		6.50	↘
水痘	2	1	1	0.00	↘
手足口病	5	2		0.00	→
伝染性紅斑	2	1		5.00	↘
突発性発しん				0.00	↘
ヘルパンギーナ	6	2		2.50	↗
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→

参考資料：京都府感染症情報センター

急性呼吸器感染症（ARI）について

急性呼吸器感染症（ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RS ウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスは、流行しやすい急性呼吸器感染症の発生動向の把握、未知の呼吸器感染症発生時に迅速に探知する等の目的で第 15 週より開始となりました。

○南丹保健所管内第 24 週報告数は 251 件（定点当たりの報告数:62.75）でした。

京都府の情報はこちら

最新情報は下記のリンク先でご確認ください（関連リンク）

・京都府感染症情報センター

更新時期：（原則）毎週木曜日 14 時　前週分の状況を更新

・感染症の情報（国立感染症研究所）